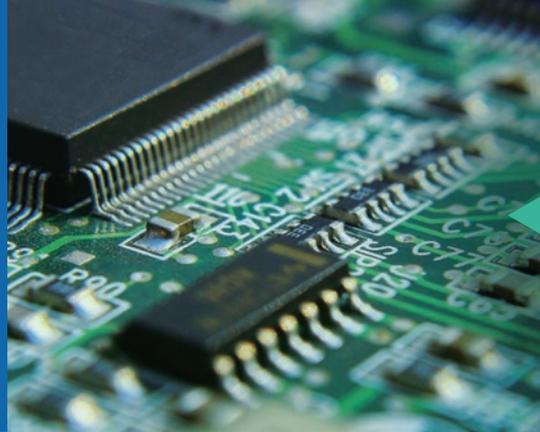




国内ガラスびんシェア No.1
ガラスびんカンパニー

ガラスびん国内シェア
(日本ガラスびん協会加盟 6社内)

約 **40%**



世界に通用する高性能キャップ
プラスチックカンパニー

飲料用プラスチック
 キャップ販売数量
(年間)

約 **40** 億個



日本山村硝子の
**4つのカンパニーと
 研究開発センター**

詳細は6ページ

変化する社会のなかで、成長し続ける山村グループ

Change and Cha

基本理念

基本理念は、山村グループの考え方や行動を支えるもので、
 企業理念の中心となるものです。

事業は人なり : 山村グループは、人間を尊重し、
 明るい経営を実現する。

商いの基は品質にあり : 山村グループは、心をこめた製品とサービス
 をもって、快適な生活文化に寄与する。

革新なくして未来なし : 山村グループは、常にイノベーションに挑戦し、
 燃える集団を目指す。

コーポレート・メッセージ

このコーポレート・メッセージは、はつらつとした
 山村グループのスピリットを社会に対して特徴づけたものです。

Heart & Technology

ハート & テクノロジー

人を信じる心を 大切に「商いの心」
 より良いものを 生み出してゆく「匠の技」

会社沿革

- 1897年 山村商店 六甲山麓砂採掘販売を経営
- 1914年 兵庫県西宮市において山村製壺所として創業
- 1955年 株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足
- 1960年 プラスチック容器工場建設、製造開始
機工部(現:エンジニアリングカンパニー)開設
- 1962年 東京都に日硝株式会社(現:星硝株式会社)設立
- 1967年 兵庫県西宮市に山村倉庫株式会社設立
- 1970年 東京・大阪証券取引所 市場第一部上場
- 1973年 リサイクルリング事業開始
- 1983年 兵庫県西宮市に株式会社山村製壺所設立
- 1987年 兵庫県西宮市にニューガラス研究所を新設
- 1989年 広島硝子工業株式会社と合併
- 1991年 フィリピンにサンミゲル山村アジア設立
- 1998年 日本硝子株式会社と合併、日本山村硝子株式会社として発足
- 2004年 中国に展誠(蘇州)塑料製品有限公司設立
- 2008年 山硝(上海)商貿有限公司を設立
- 2009年 タイに山村インターナショナル・タイランド設立
- 2010年 インドネシアにサンミゲル山村ウタマ・インドプラス(現:山村ウタマ・インドプラス)設立
山村フォトニクス株式会社子会社化
- 2013年 秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)子会社化
- 2015年 山村ロジスティクス株式会社設立
- 2016年 米国にYGQカリフォルニア(現:山村インターナショナル・カリフォルニア)設立
- 2018年 株式会社ワイティエフ設立
台湾に台湾山村光學股份有限公司設立
- 2019年 米国にアルガラス山村設立
山村プラスチックプロダクツ株式会社設立

最先端のガラス材料を開発
ニューガラスカンパニー

環境関連製品
 売上比率
 約**30%**



持続可能な
 次世代ビジネスを開拓
研究開発センター

栽培実績
 約**370**品種



ガラスびん関連設備の
 ワンストップサービス
**エンジニアリング
 カンパニー**

国内の
 製びん機シェア
 約**40%**

国内関係会社8社

詳細は7-8ページ

海外関係会社10社

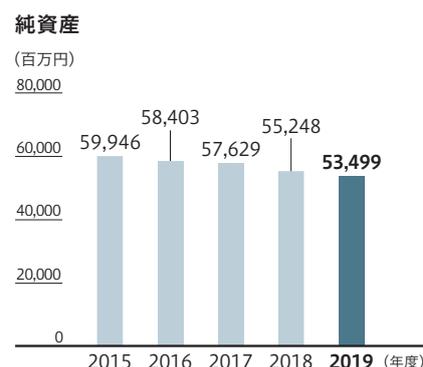
詳細は9-10ページ

Challenge with You

会社概要／財務ハイライト

※ グラフはすべて連結の財務データです

商号 日本山村硝子株式会社
 Nihon Yamamura Glass Co., Ltd.
 創業 1914(大正3)年4月5日
 資本金 140億円
 株式上市 東証一部
 事業内容 ガラスびん・プラスチック容器の製造・
 販売、粉末ガラス・ガラスペーストなど
 の製造・販売、機器およびプラント類
 の設計、製作、販売ならびに設置工事
 従業員数 829名(単体) 2,700名(連結)
 ※ 2020年3月現在
 決算日 3月31日



循環型社会の実現と、持続的成長

当社は1914年の創業以来、“循環型社会の実現に貢献する”精神を大切に、ガラスびん製造を事業の柱として着実な歩みを続け、現在では容器メーカーとして不動の地位を築き上げました。そしてこの度、長期ビジョンとしての当社グループの“ありたい姿”を「環境に配慮しながら安心・安全を提供し、次世代に誇りを持って引き継ぐために成長し続ける企業グループ」と決めました。長きにわたって社会から必要とされる会社であり続けるため、改めてグループ一丸となって歩んでまいります。

近年、当社グループでは事業構造の改革に積極的に取り組んでまいりました。主力のガラスびん事業では、2019年に米国にアルガラス山村を設立し、海外への展開をさらに推し進めています。ニューガラス関連事業においては、2018年に台湾に台湾山村光學股份有限公司を設立いたしました。同年、日本国内にも株式会社ワイティエフを設立するなど、同事業セグメント内のカンパニーおよびグループ各社で相乗効果を創出できる体制を整えながら、社会のニーズに応えた差異化製品の開発に一層力を入れております。プラスチック容器関連事業では、2019年に山村プラスチックプロダクツ株式会社を設立し、事業セグメントの業務効率向上を図っております。また、物流事業も近年ますますその存在感を増しています。このように、グループ全体でさらなる飛躍を目指すべく、加速する外部環境の変化を敏感に感じ取って運営体制や製品・サービスにおける革新を引き続き強力に進めてまいります。

また、当社では持続可能な社会の実現のため、地域および環境との調和を重要な経営課題と認識し、環境問題への取り組みを続けております。今後もESGの観点から総合的に企業価値の向上に取り組み、社会から信頼され続ける企業グループを目指してまいります。

2020年7月

代表取締役 社長執行役員 山村幸治

を目指して

山村グループの
長期的な“ありたい姿”

環境に配慮しながら安心・安全を提供し、
次世代に誇りを持って引き継ぐために
成長し続ける企業グループ

中期経営計画(2020年4月～2023年3月)

Change and Challenge with You

“ありたい姿”を実現するため、新しい3カ年中期経営計画を策定しました。

5つの経営方針

- 1 環境変化に適応した運営体制の構築**
生産・供給体制の最適化、事業セグメント内の相乗効果を
発揮できる体制を早期に構築
- 2 投資効率の追求と収益体質の確立**
収益力の強化を図り、ROEを3カ年で3%以上、
長期的に5%以上を目指す(直近実績-0.3%)
- 3 事業の拡大と成長戦略の推進**
最終年度に連結売上高720億円(直近実績674億円)、
連結経常利益25億円(同1.4億円)を目指す
- 4 社会のニーズに応える製品・サービスの展開**
持続可能な開発目標(SDGs)を考慮した
高品質な製品とサービスを開発・提供
- 5 従業員の能力が最大限発揮される
職場環境の構築と次世代の育成**
教育とダイバーシティの推進と就労環境の整備



持続可能な社会の実現に向けて、重要課題を策定しました

最重要課題を5点策定しました

当社グループが掲げる長期ビジョンとしての“ありたい姿”である「環境に配慮しながら安心・安全を提供し、次世代に誇りを持って引き継ぐために成長し続ける企業グループ」の実現に向けて、5つの最重要課題を設定しました。

この5つの課題について、事業活動を通じて解決できるよう努めていきます。

山村グループの最重要課題

環境貢献	法令順守
人権尊重	企業統治
安心安全	

重要課題の整理とSDGsへの貢献

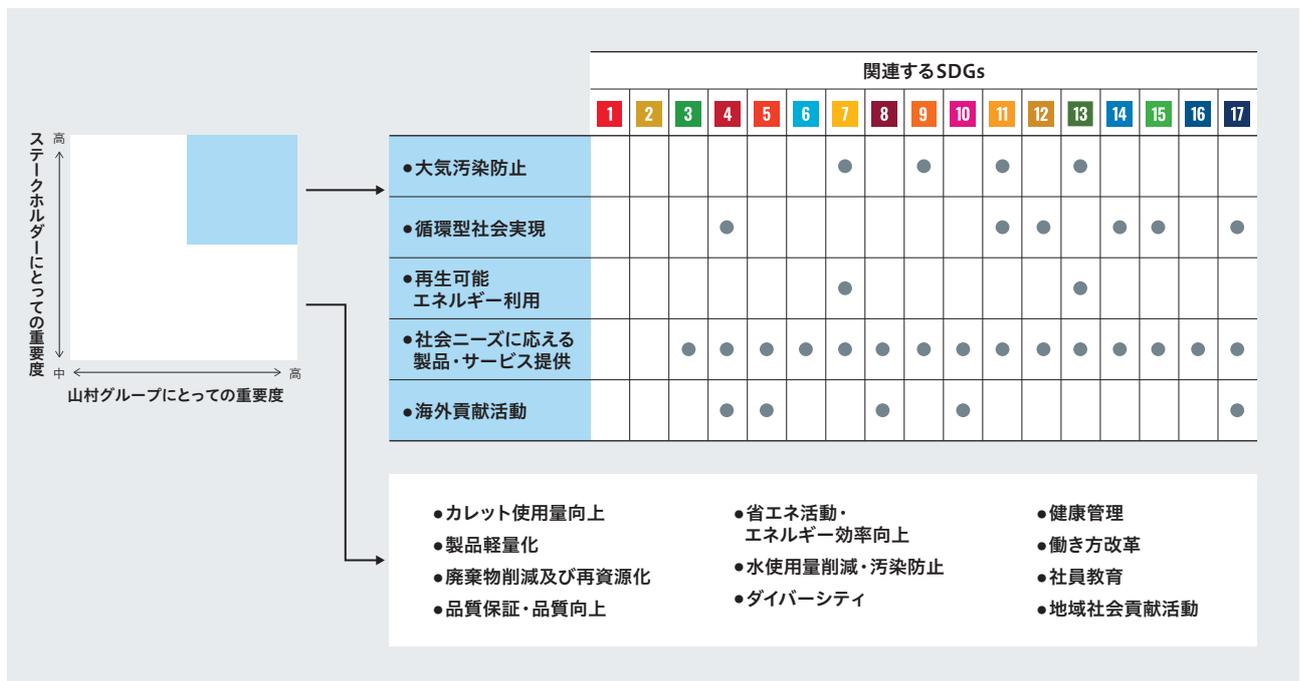
最重要課題を前提とし、持続可能な開発目標ごとに当社が取り組むべき課題を検討しました。さらにそれぞれの課題について、ステークホルダーにとっての重要度と山村グループにとっての重要度を分析し下図のように整理しました。

双方から重要度が高い優先課題については、関連するSDGsの達成に向けて重点的に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値を向上できるものと捉えています。

実際、これらのテーマは、当社グループがこれまで取り組んできた事業活動の延長として実現できると考えています。

次年度以降、具体的な目標値を設定しながら、その達成を目指していきます。

持続可能な開発目標 (SDGs)



高品質の製品・サービスを提供します



ガラスびんカンパニー

ガラスびんカンパニーでは、新たなびん形状の開発や加飾技術による高付加価値化、最先端の検査設備開発による高品質化に注力しています。びんの軽量化を引き続き推進するほか、廃熱の有効利用やガラス溶解炉のNO_x低減に関する共同研究等を進めることで、循環型社会の実現に貢献しています。海外各社との技術開発、製品の海外販売、海外技術援助先の開拓にも積極的に取り組んでいます。近年では、金型への離型剤塗布作業のロボット化にも成功しています。

- 特長・特性
- 高品質保証体制を確立
 - スピーディな新製品開発サポート



プラスチックカンパニー

1960年の創業以来、半世紀以上にわたってプラスチック容器の新たな可能性にチャレンジしながら成長を続けています。今後も継続的に製品開発を行い、新たなキャップ、特に環境対応キャップの開発や新規分野への参入も目指しています。

海外展開については、中国およびインドネシアのプラスチックキャップ製造・販売子会社の事業規模拡大に引き続き取り組んでいきます。

- 特長・特性
- 一貫した高速ラインによる安全品質と安定供給
 - 独自開発の「TENキャップ」



ニューガラスカンパニー

ガラスびん事業で培った高度な技術をベースに、エレクトロニクス、エネルギー、自動車関連など各分野のニーズに対応。独自の最先端技術で新製品開発や生産技術開発に取り組み、広く社会に貢献します。また国内外のグループ会社とともに、次世代高速光通信部品やガラスセラミックス製品の展開に相乗効果を発揮する中心的役割を担います。

研究開発・生産・販売が一体となってガラス材料で未来を創ります。

- 特長・特性
- 市場ニーズに合った組成改良と新しい用途開発
 - 国内外の最先端のニーズに迅速に対応



エンジニアリングカンパニー

ガラスびんに求められる日本品質を守り、自社で培ったノウハウを反映した成型機を製造販売しています。また、総合検査機や自動塗油ロボット(MSR)などの自社開発製品に加え、海外メーカー製品も取り扱い、ガラスびん関連設備のワンストップサービスを提供しています。

他にも、変形ボトル搬送のノウハウを活かした搬送機器やバルク包装機、飲料充填設備のラインエンジニアリングを展開することで、ガラスびん製造以外の分野へ事業の翼を広げています。

- 特長・特性
- 国内唯一のガラスびん成型機サプライヤー
 - ガラスびんにやさしい搬送技術
 - 各種機器の輸入代行と輸入機の販売商社



研究開発センター

研究開発センターは、2007年の設立から現在に至るまで、既存事業とは異なる分野で新規事業の研究開発を続けています。開発の基本コンセプトは「安心・安全」「環境」「サステナブル」。開発テーマの一つである植物工場事業は2014年末から生産販売を開始し、完全制御型植物工場としては第一号となる機能性表示食品の届け出を実現。今後も競争優位性のあるオリジナル技術の研究開発を継続していきます。

- 特長・特性
- 持続可能な新規事業の研究開発
 - 競争優位性のあるオリジナル技術の開発
 - 高機能な野菜を生産する植物工場

DOMESTIC NETWORK

多彩な事業を日本から発信する

品質向上や新規事業への取り組みなど、お客様の信頼につながる体制の強化に注力し、山村グループとしての力を最大限に発揮しています。

ガラスびん関係会社



1

星硝株式会社

主な事業内容

ガラスびん、包装資材全般、セラーメイト商品の販売、機械器具の設計・製作・販売

1962年に創業してから59年目を迎えました。事業領域はガラスびんをはじめとした容器包装資材、セラーメイト商品の枠を超え、機械器具の設計・製作・販売や広口給水袋の取扱いなど多岐にわたっています。私たちの財産である、お客様と築き上げた信頼関係と知識やノウハウをもとに、新たな価値創造の提供に取り組んでいます。



2

株式会社山村製壺所

主な事業内容

ガラスびん製造販売

日本山村硝子の伝統を礎に、付加価値の高いガラスびんを製造販売しています。30色以上のカラーバリエーション、個性豊かなかたち、小ロット生産体制を実現しています。

お客様に驚きや感動を与えたいという決意を持ち、これからもお客様第一主義のもと、山村製壺所ならではの製品を提案し続けていきます。



3

日硝精機株式会社

主な事業内容

金型製造販売

ガラスびん金型のほか、多様化するペットボトル用金型および付属品の設計製造、修理を主な業務としています。

常に過去最高の生産性を目指し、全体最適な体制を築くことを心がけています。

また、近年は若手従業員の採用を進め、ベテランの匠の技を伝承する人材の育成を図るよう取り組んでいます。

プラスチック関係会社



4

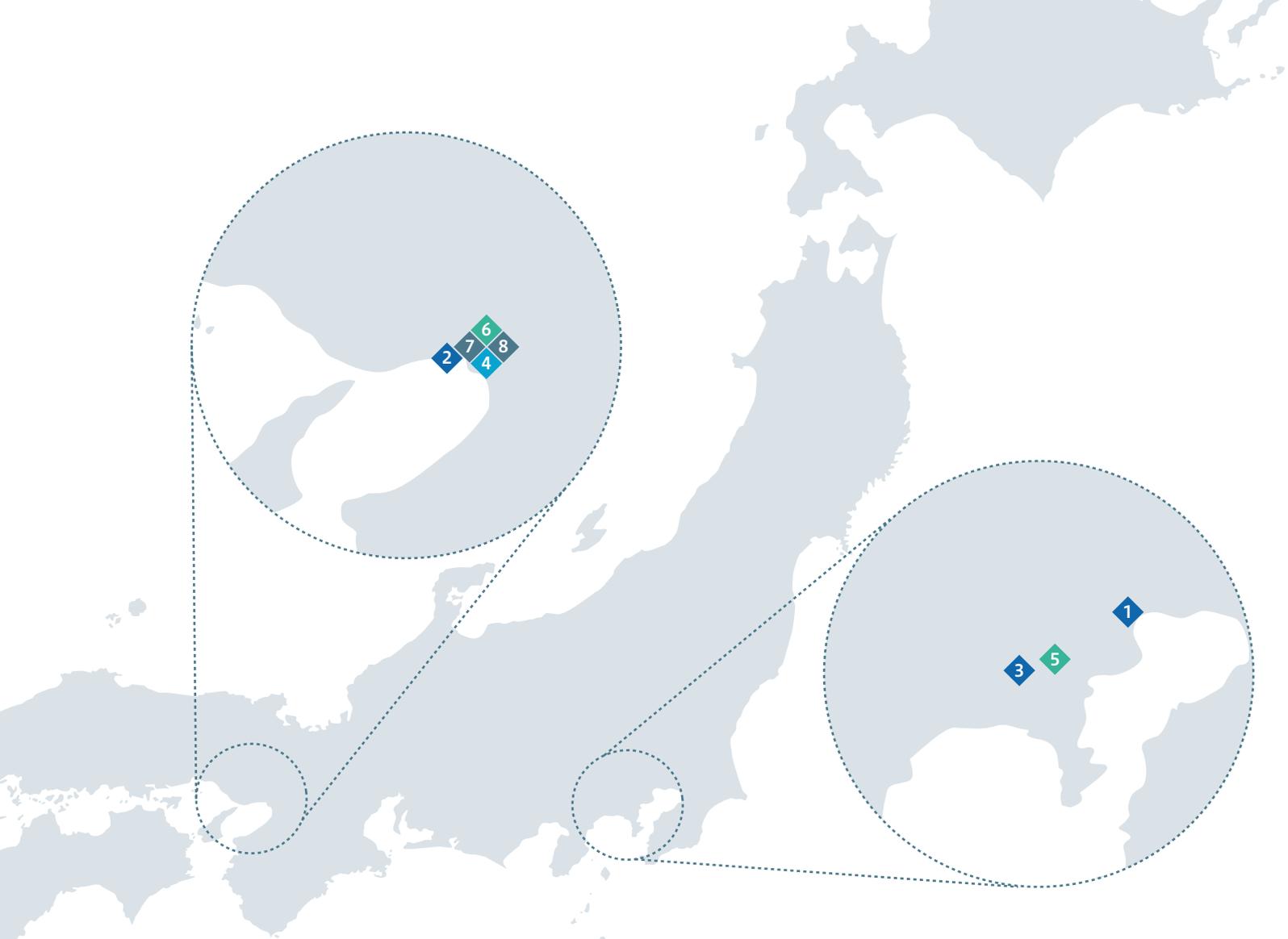
山村プラスチック プロダクツ株式会社

主な事業内容

飲料用プラスチックキャップ製造

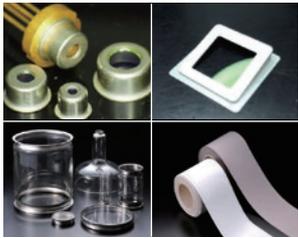
山村グループのプラスチックキャップの製造と管理に特化するため、2019年に山村倉庫からプラスチック事業を承継する形で設立されました。

高品質なペットボトル用キャップの量産を通じ、飲料業界への貢献と山村グループのさらなる発展を目指します。



ニューガラス関係会社

物流関係会社



5

山村フォトニクス株式会社

主な事業内容
電気・電子機器用ガラス部品・LTCC基板材料の製造販売

ガラス材料技術および金属とガラスの溶着技術をベースに、ガラス事業、オプトエレクトロニクス関連事業、ガラスセラミックス事業の3分野で事業を展開しています。

「光とエレクトロニクス」をキーワードとしたユニークな電子部品の開発・生産を通じ持続可能な社会の実現に向け、取り組んでいきます。

6

株式会社ワイティエフ

主な事業内容
半導体・電子部品向け機能性フィラー製造販売

2018年に株式会社トウチュウとの合併で設立され、トウチュウ社が持つ珪砂精製技術と当社ニューガラスカンパニーが持つ粉砕加工技術を融合し、半導体・電子部品向け機能性無機フィラーを開発、製造、販売しています。

「価値創造&社会貢献」をスローガンに、すべてのお客様に新しい価値を創造し、社会の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

7

山村倉庫株式会社

主な事業内容
製造請負、輸送・保管、構内作業

1967年に創業。2015年に山村グループ内業務に特化するために分社化、新生・山村倉庫として生まれ変わりました。日本山村硝子の各カンパニーや研究開発センターの製造・保管・出荷などの現場業務をはじめ、本社および関係会社から各種の業務請負を行っています。山村グループをトータルにサポートしています。

8

山村ロジスティクス株式会社

主な事業内容
食品物流サービス、保管、配送、警備・管財、人材派遣

お客様にロジスティクス改革を提案し、包括的にロジスティクスサービスを受託する3PL(サードパーティーロジスティクス)を展開しています。さらに「輸送」「倉庫内管理業務」「警備・管財」「人材派遣」と、あらゆる分野で安心・安全・安定した品質を維持することで、お客様に満足いただける真のサービスを提供しています。

GLOBAL NETWORK

事業領域を世界に広げて

海外拠点を拡充して事業領域を広げています。

技術援助や共同開発にも積極的に取り組み、グローバル企業としての総合力を高めています。

ガラスびん関係会社



1 中国

秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)

主な事業内容

ガラスびんの製造販売

1958年設立のガラスびん会社。2013年7月、日本山村硝子の合弁子会社となり、2016年9月に日本山村硝子の独資となりました。日本で培った高度な技術を導入し、高品質のガラスびんを供給することにより、中国国内のみならず、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、スペインなど、海外でも積極的にビジネスを展開しています。



2 米国

アルガラス山村

主な事業内容

ガラスびんの製造販売

米国のカンビウムとの共同出資で2019年に設立。傘下のアルガラス山村SEでは、2020年末の稼働開始を目指してジョージア州バルドスタ市に生産工場を建設しています。基本理念の「柔軟・効率・サステナブル」をもとに、小ロット・多品種に対応できる最先端技術と設備を利用して高品質のガラスびんを製造販売していく予定です。

プラスチック関係会社



3 中国

展誠(蘇州)塑料製品有限公司

主な事業内容

TENキャップ、軽量キャップの製造販売

台湾のプラスチックメーカーと合弁で2004年に設立し、2009年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産しており、中国国内を中心に韓国、台湾、東南アジアなどに販売しています。TENキャップの販売は順調で、また商品開発にも力を入れたことで新製品が増えてきています。



4 インドネシア

山村ウタマ・インドプラス

主な事業内容

TENキャップ、軽量キャップの製造販売

サンミゲルとの合弁会社であるサンミゲル山村パッケージング・インターナショナルとの合弁で、2010年に設立。2012年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産し、現地の日系企業、ローカル企業を中心に、東南アジア、中国へ販売しています。今後はさらにローカルに根付いた商品開発に取り組んでいきます。

サンミゲル山村パッケージンググループ

9 フィリピン

サンミゲル山村パッケージング

主な事業内容：ガラスびん、その他包装容器の製造販売

フィリピンを代表するコングロマリット（複合企業）サンミゲルコーポレーションと日本山村硝子との共同出資会社。フィリピンを中心にオーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、ベトナム、中国の製造販売拠点から、ガラスびんなど多種にわたる包装容器を全世界で販売しています。オーストラリアではびん、コルク等の販売に加えてワインの充填、輸出、直接販売も行うなど、事業領域を拡大しています。1991年設立のサンミゲル山村アジアは、日本山村硝子の初めての海外ガラスびん製造販売拠点でしたが、事業拡大するサンミゲル山村パッケージングとさらなる相乗効果を生み出すため2020年3月に統合、現在はその主力工場となっています。



10 英領バージン諸島

サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル

ニューグラス関係会社

商社



5 台湾

台湾山村光學股份有限公司

主な事業内容

光学ガラスレンズ製品の製造販売、各種光学コーティングの受託加工

中国砂輪企業股份有限公司（KINIK）との合弁会社。レーザーなどの光を集光、あるいは平行光に調光するための非球面ガラスレンズ製品を製造販売しています。光通信、プロジェクター、ディテクターなどに使用され、特に光通信の用途は、5Gの普及に伴う高速大容量・低遅延・多接続のニーズを受けて今後大きな成長が期待されています。



6 中国

山硝(上海)商貿有限公司

主な事業内容

ガラスびん、ペットボトル用キャップ、機械設備、ニューグラス・光通信用ガラス部品、その他包装資材一般、ワインおよび食品の仕入販売

日本山村硝子の初の海外営業拠点として、2008年に上海市に設立。2012年には広州事務所を開設しました。2018年には山硝(香港)も設立し、3国間貿易を円滑に行える体制が整いました。商社ならではのネットワークを活かし、日系企業・ローカル企業をはじめ、中国内外を問わず営業活動を行っています。



7 米国

山村インターナショナル・カリフォルニア

主な事業内容

山村グループの米国向けカスタマーサービス

YGQから米国向けに輸出するガラスびんに対しYGQと連携してお客様のご要望に迅速に対応しています。また、山村グループ各社とも連携し、主なターゲットである米国のワイン市場に加えて、スピリッツや日本酒市場でもガラスびんの拡販を目指し活動しています。2019年2月に事務所をNapaからWalnut Creekへ移転しました。



8 タイ

山村インターナショナル・タイランド

主な事業内容

ガラスびん、ペットボトル用キャップ、その他包装資材一般の仕入販売

タイ大手飲料メーカーであるオソサファとの合弁で、2009年にバンコク市に設立した商社です。タイローカル企業ならびに東南アジア市場の日系企業を中心に各種包装資材のみならず、充填・生産ノウハウも含めたワンストップサービスを提供しています。